

# 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成24年8月20日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4675100152号
法人名	医療法人 心晴
事業所名	グループホーム花水木
所在地	鹿児島県伊佐市菱刈前目791 (電話) 0995-24-1182
自己評価作成日	平成24年7月9日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、利用者が一日一日を穏やかな住みなれた環境の中で、尊厳を持って笑顔で生活できるよう「花水木の心」という理念を掲げ、ケアを行っています。特に地域との連携、社会資源の活用を重視し、開放的な環境づくりを目指しています。近隣の住民の方々が、気軽に立ち寄り、保育園や小学校との交流、ボランティアの受け入れなど、利用者と住みなれた地域との交流を活発に行っています。また、利用者の持つ能力を最大限に発揮し、充実した生活を送れることを目標に協力医療機関と連携を図り、その一人ひとりが状況に応じたリハビリを受けています。利用者の生活動作を維持するため、事業所内での生活に沿った機能訓練を実施し、利用者一人ひとりが、可能な限り自立した生活が送れるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成24年7月24日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

菱刈の市街地に近接し、周辺は田園地帯ではあるが、スーパー、駐在所、保育園、小学校、総合保健センターなどの公共施設もあり、自然環境に恵まれた利便性の良い住宅地に建てられている。母体法人は長年、同地で医療と福祉に携わっており、地域からの信望も厚く、グループホームも地域の協力を得ながら孤立することなく交流が活発に行われている。

事業所主催の救命講習・防災訓練・敬老会などの行事への地域の方々の参加や近隣の保育園、隣接するデイサービス利用の友人たちの訪問など交流の機会も多く、小学校の授業参観へも出かけるなど地域の理解も得られている。他にも、これまで使っていた理髪店・美容室・衣料品店・図書館利用など入居後もなじみの関係が途切れないように支援している。また、新聞を継続して購読している利用者も数名おり、入居後もこれまでの生活習慣が維持されている。

ホームではおむつ使用はしない方針で排せつの自立に向けた支援を行い、排せつパターンと利用者の身心状況を把握してタイミングを見極め、改善されるよう導いている。現在、完全に自立している利用者も数名おり、維持できるように支援している。職員間のコミュニケーションが良く、利用者への質の高いサービスの提供に繋がり、会話と笑顔の絶えない毎日を送れるように日々心がけ利用者のこれまでの人生を尊重した支援に努めている。利用者同志も仲が良く、ソファでくつろぎながらおしゃべりをしたり、何かと世話をしてくれる利用者は他の利用者にもいい刺激を与えてくれている。

事業所の力を生かし、これまでも地域の総会やホームで地域住民向けや家族向けの認知症予防教室を開催してしており、今後の活動にも管理者・職員の意欲が伺われる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	利用者が住みなれた地域で尊厳をもち、笑顔で過ごしていただきたいという思いをこめたグループホーム花水木の名に擬えた理念を掲げ、常にケアに反映させている。	事業所独自の理念「花の心・水の心・木の心」の意味を明確に説明するとともに、木の心に「地域に根ざし住み慣れた地域での生活を継続できるように支えます」との補足があり、地域密着型サービスとしての理念を作成している。理念は職員の目につくところに掲示し、職員会議などで理念を確認する機会もあり、理念の共有と実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加するだけでなく、当事業所で企画した敬老会や忘年会に地域住民の皆様に参加していただいている。また、併設のデイサービスの利用者との交流も行っている。	事業所主催の救命救急や防災訓練、敬老会などに毎回、多数の地域の方々の参加がある。他にも、小学校の授業参観や保育園との定期的な交流、ボランティア・小学生の学習体験の受け入れなどで交流の機会が多い。また、地域の総会で認知症予防教室を開くなど事業所の力を生かした交流にも努めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	小学生の介護体験、ボランティア活動を積極的に受け入れ認知症やその接し方を理解していただいている。また、当事業所で認知症サポーターの会を行った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催し、毎月の活動報告に加え、施設の運営管理等について報告、参加者との活発な意見交換を行いサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2カ月に1回、民生委員・家族・職員・行政など参加をもらい定期的に開催している。毎回、家族には参加を呼び掛けており、全家族に運営推進会議が浸透している。ホームの状況報告や行事報告、ヒヤリハット・事故報告、意見交換が行われている。	

鹿児島県 グループホーム花水木 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の他に地域の連絡協議会においても市町村と情報交換を行う機会がある。また、日頃から、協力関係の構築に取り組んでいる。	地域包括支援センター、市の長寿支援課、福祉事務所とは訪問や定期的な報告などで日頃より連携を図り、協力関係を築くように努めている。また、市より敬老の日のお祝いが届けられる利用者もいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を実施し、可能な限り鍵をかけない自由な暮らしを支援する為の意識向上に努めている。また、ミーティング等でケアを振り返り目に見えない拘束についても意見交換を積極的に行っている。	身体拘束廃止委員会を設置して必要に応じ、検討会議を行っている。また、運営規定に身体拘束について具体的な禁止例を明記して、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。日中は施錠などせずに職員間の連携で安全で自由な生活を送れるように支援している。不意に外出する利用者には職員が着いて行き、散歩などで対処し、ホーム前の交番にも協力依頼を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や施設内での勉強会を行い、理解浸透や遵守に向けた取り組みに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について研修への参加・伝達を行い必要に応じて活用できるように取り組んでいる。		

鹿児島県 グループホーム花水木 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約については利用者及び家族等に十分な説明を行い同意を得ている。また、改訂の際は運営推進会議において協議し意見交換を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への家族全員の呼びかけ意見交換の場を設けている。また、日頃より利用者や家族の意見・要望に耳を傾けることを心がけ、ミーティング等で話し合いケアに反映するよう努めている。	運営推進会議に毎回、家族が多数参加しており、意見・要望が出されることもある。また、電話連絡時や毎月の支払いを窓口持参にしており、面会の機会に家族から意見、要望を聞き出すようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のミーティングには管理者と法人から院長や事務長が参加し、現場の意見や提案を聞く機会を設けている。	毎月のミーティングで意見交換や話し合いを行っている。職員からは利用者の処遇についてや業務の改善点などの意見・提案が出て、サービスの質の向上と運営に反映させるようにしている。代表者とは毎日連絡帳で状況を報告している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ一人ひとりが個々の目標を掲げ、研修や資格取得に向けた支援体制を整え、個々の努力や実績に対し、評価する体制の構築に努めている。		

鹿児島県 グループホーム花水木 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修には、各職員ができるだけ参加できるよう体制を整え後日、ミーティングで伝他湯講習を行い知識の共有化を図り、サービス及び知識の向上に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内の連絡協議会に加盟しており、各グループホームの職員の交流や意見交換を行っている。今年度は、他施設研修を行い、交流・ネットワーク作りを行った。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用について相談があった場合には、本人との対話の機会をつくり、心身の状態や本人の思いを把握するように努め、職員との信頼関係を築きながら、不安の解消や要望への適切な対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの経過について十分な話を家族から聞き取り、その意向等についてどのような対応ができるか事前にわかりやすく説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族のおかれている状況や意向を適切に把握し、必要に応じて地域の居宅支援事業所や他の介護サービス事業所等を利用できる環境づくりに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が生活の主人公になれるよう、各利用者の主体性を尊重したケアを行うように心がけている。また、利用者それぞれの本来の個性や能力が発揮できるような場面作りに努めている。		

鹿児島県 グループホーム花水木 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月「家族への手紙」を送り、日頃から家族の訪問時には利用者の様子をつぶさに伝えるよう努めている。また、ホーム内外での行事への参加を呼びかけ、職員・家族がともに利用者を支えていく関係性の構築を図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	サービス開始前に本人の生活主観等の情報を得て、入居後の暮らしに役立てるようにしている特に馴染みの美容院や行きつけのお店などは、入居後も継続して利用していただいている。	入居前から使っていた理髪店・美容室・衣料品店・図書館など入居後も継続して利用できるようなじみの人や場との関係継続の支援を行っている。また、新聞購読を継続している利用者もあり、これまでの生活習慣も保たれている。併設のデイサービス利用の友人の訪問も多い。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について適切に把握し、利用者同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となって円滑な関係性が構築できるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス契約終了後も利用者の家族がホームを訪ねてこられたり、自宅をスタッフが訪ねたり法人内で会い相談等を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居にあたり、本人及び家族や知人から生活に対する意向や要望を聞き取りその把握に努めている。また、入居後には日々のかかわりの中での会話や、動作。表情から、利用者それぞれの本意を推察し把握するよう心がけている。把握が困難な場合はカンファレンスにて対応を検討している。	利用者との密な関わりの中での担当者による気づきも多く、申し送り時やケア記録などで全職員に情報の共有が図れるように徹底している。また、日常の会話の中から思いや意向を把握し、困難な場合は表情、言動、家族や関係者からの情報などから本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のシートを一部活用した生活暦、利用者それぞれの暮らしの把握に努めている。また、日々の生活の中で得た情報も追加しながら職員間での情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的な1日の流れはあるが、その日の体調のパターンを尊重し利用者それぞれに合わせた適切な支援を行っている。また、できないことよりできることに注目し、その人の能力の全体像を把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を日頃から把握し、介護計画に反映させている。また、各利用者の担当職員を中心にカンファレンスを行い、各関係者の意見を踏まえ、職員全体での計画作成を行っている。	本人家族の希望により公文療法の継続や排せつの改善を課題にしている利用者もいる。また、ケース会議を毎月行って職員の意見を出し合い、それぞれの意見やアイデアを反映させた介護計画を作成している。必要があれば都度見直しを行い、変化がなくても3ヵ月ごとに定期的な見直しを行って現状に即した介護計画を作成している。	



鹿児島県 グループホーム花水木 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケアに加え、食事の摂取状況や排泄等を把握できるようにしている。また、勤務開始前には必ず連絡確認し情報の共有を図っている。利用者それぞれの記録をもとに、介護計画の見直し・評価を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望や必要性に応じて、ご家族と一緒にホームで食事を摂っていただく他外出・外泊の支援も行っている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員や、地域の民生委員等に参加していただき、近隣地域の情報や介護支援に関する情報交換を行うなど協力関係を構築している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。受診時の送迎には看護師が同伴し、利用者が安心して受診できるよう支援している。家族の同伴も依頼しているが、できない場合は、診察の結果や状態について詳しく伝達している。	本人・家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。法人の医療機関とは24時間医療連携体制が図られている。定期的な医師の往診とホームの看護師による健康管理が密にされており、家族の安心に繋がっている。	

鹿児島県 グループホーム花水木 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し、普段の健康管理や状況変化に応じた支援を行うようにしている。また、介護職員に対して利用者の健康管理や状況観察の些細な変化を見逃さず看護職員との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入院時には利用者の支援方法に関する情報をサマリーにまとめて提供している。入院中も職員が見舞い、医療機関との連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所における看取りケア説明書を作成し、その指針について入居時にご利用者本人と家族へ説明し、週末期の意向確認書、急変時対応希望書について承諾を得て、指針の統一を図っている。また、見直しも状況に合わせて行っている。	重度化や終末期に向けたホームの指針を作成し、入居時に説明して「終末期の意向確認書」と「急変時対応希望書」にて同意を得ている。入居後は利用者の身体状況に応じて主治医の判断の下、家族と話し合い、方向性を共有して支援に取り組んでいる。	「看取りケア説明書」にて説明しているが、具体的な内容が充分であるとは言えない。今後は職員の力量、人員配置なども考慮して職員全員でホームでできる支援について話し合い、家族にも分かりやすい具体的な内容の指針の見直しが課題である。
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	蘇生術の研修を実施し、職員が対応できるようにしている。また、緊急時夜間マニュアルを整備し、協力医療機関と密な連携を図り、24時間協力体制にある。		

鹿児島県 グループホーム花水木 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力の下、年2回避難訓練、避難経路の確認、消火器の取り扱いなど訓練を行っている。</p>	<p>近隣の派出所、地域住民参加の避難訓練を年2回行っている。隣接の母体医療機関とも協力関係が築かれており、自家発電、備蓄も確保されている。自動通報装置・スプリンクラーも設置されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の利用者に合わせた声かけや対応の仕方について、ミーティング等で取り上げ統一したケアが行えるよう努めている。また、利用者を人生の先輩として尊重し、プライドを傷つけないケアを徹底している。	人生の先輩として尊厳の気持ちをもって接するように心がけている。ミーティングなどで機会を捉えて話をすることもあり、職員の資質の向上に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた適切な声かけや誘導を行い、その時々状況に合わせて本人の意向を考慮し、選択していただけるような場面作りを行っている。意思表示の困難な方には、表情やしぐさなどから読み取る努力を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本スケジュールはあるものの、起床や睡眠時間・食事のペースなど利用者それぞれの生活習慣に合わせ、柔軟な対応を心がけている。また、利用者一人ひとりの希望にあわせ散歩や買い物など個別に楽しんでいただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	整容に関しては、利用者本人の意向を確認しながら職員と一緒に選び、好みに合わせた服装ができるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	予めメニューを決めてあるが、利用者それぞれの嗜好に合わせていつでも変更できるようにしている。旬の野菜や食材を取り入れ、利用者の体調を考慮しながら職員と一緒に材料に下ごしらえや配膳を行っている。	個々の力量に応じて準備や片づけなど職員とともに行っている。また、家庭菜園の収穫を楽しんだり、食材の買い物にも同行している。ときには気分を変えて、庭で食事を楽しんだり、ソープ流しやお弁当持参で出かけることもあり、利用者の希望で個別の外食支援も行っている。利用者同志、世話したりされたりとほほえましい食事風景が見られる。	

鹿児島県 グループホーム花水木 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量はおおよその量を職員全体で把握している。食欲の低下や病気等による見込みが悪化した場合には、体調や運動量、食事を摂る時間、介助の方法や食器を工夫し、安易に人工的な栄養補給に頼らないようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は洗面所にてうがいや歯磨きをしていただいている。個々の利用者の能力に合わせた見守りや介助を行い清潔保持を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の利用者の排泄パターンや生活のリズムを把握し、排泄チェック表を利用しながら、尿意のない利用者にも時間を見計らい誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。	排せつチェック表を作成して個々の排せつパターンを把握し、タイミングを見極めて誘導し入居後に改善された利用者も多い。おむつ使用はせずにトイレでの排せつを支援しており、現在、自立している利用者も多い。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々にあわせたトイレ誘導を行っている。便秘の利用者には水分摂取や繊維質の多い食材の提供を行い、自然排便を促す工夫を個別に行っている。		

鹿児島県 グループホーム花水木 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	その日の体調や気分に合わせて、気持ちよく入浴していただけるよう心がけている。入浴を拒む利用者に対しては、今までの生活習慣や意向を把握し安心して入浴できるような努力をしている。	基本的には、一日おきではあるが、希望があれば毎日の入浴も可能で時間帯も個々に応じた入浴の支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの夜間の様子や、日中の状況を把握し、利用者それぞれにとっての自然な睡眠が得られるようなアプローチを行っている。眠れない利用者や夜中に目が覚める利用者に対し、眠ることだけに注目せず、温かい飲み物を一緒に飲む、話し相手になるなどして不安やストレスの軽減を図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の薬の説明書のファイルを作り、職員がいつでも確認ができる。薬が変更になった場合は看護職員が中心となり、服薬後の状態変化の観察に留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の家事、野菜・花作り、梅干やチマキ作りなど、利用者の趣味や経験を発揮できる環境作りや行事を行っている。季節の行事や外出の際は、利用者の意向を取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者それぞれの買い物や散歩、訪問、面会などその希望や体調に応じて家族や近隣住民の方と連絡を図りながら、外出できるように支援している。天気の良い日はドライブや戸外での食事なども行っている。	日常的には散歩や買い物に出かけるなど外出の支援を行っている。毎月、外出のレクリエーションとして季節の花見見学（ひまわり・しょうぶ・バラ）・ソーメン流し・曾木の滝・アートトラック見学などに出かけ、他にも個別支援の買い物・外食・図書館などできるだけホームに閉じこもらないように支援している。	

鹿児島県 グループホーム花水木 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者によっては、小額のお金を所持されている。また、事業所で利用者一人ひとりのお金を預かり、外出の際には自分でお金を持ち買い物を楽しみ、自ら支払いができるよう支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>入居に際して、利用者本人や家族へは、自由に連絡を取っていただける旨を説明している。また、利用者が希望通りに電話や手紙を出せるよう支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関やディルームには季節感のある花や飾りを置き、廊下の壁には行事の写真を掲示し、利用者の家族や事業所を来訪された方に見ていただけるよう配慮している。事業所内の消臭も刺激が少なくリラックスできるようなものを使用している。</p>	<p>共用空間は広く庭に面してリビングが作られているので明るく開放的である。木をふんだんに使った造りはやさしさとあたたかさが伝わってくる。食事のダイニングとくつろぎのリビングに分かれ、生活にメリハリができ、台所での食事準備や食事の匂いは生活感を与えてくれる。窓のそばとテレビの前にはソファが置かれ、横になってテレビを見ることが出来るように畳もおかれている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂とディルームは一体的な作りになっているが、それぞれの利用者がお気に入りの場所で過ごせるよう配慮している。</p>		

鹿児島県 グループホーム花水木 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の入居に際しては、なじみのある家具や、使い慣れた品物があれば持参していただいている。入居後は、利用者と話し合いながら、思い出のある品や写真を飾り、自分らしい部屋作りを支援している。	入居の際に使い慣れたものやなじみの物品を持ち込んでもらえるように、家族に説明している。テレビ・イスとテーブル・観葉植物・家族の写真などが持ち込まれ個性があり、居心地良く過ごせる居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関のスロープ化、ホーム全体のバリアフリー化を実施している。車椅子でも自由に行き来できるスペースも確保している。		



V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホーム花水木 1ユニット

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホーム花水木 1ユニット

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない